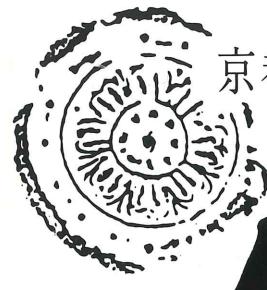


京都市文化観光資源保護財団



# 今報

76

NO.

1998. 11. 20

## もくじ

### 寄稿

「植生景観の歴史から想うこと」

京都精華大学助教授・当財団史跡管理専門委員 小棕純一 P 2

「番匠儀式の伝承 保存会30年を迎えて」

番匠保存会 会長 橋本貞造 P 4

### 保護財団の活動

P 5





## 植生景観の歴史から想うこと

小椋 純一

森林などの植生景観が、これまでどのように移り変わってきたかを調べていると、京都の町の周辺の山々でも、特にここ百年ほどの間にそれがずいぶん大きく変化してきていることがわかる。

その変化には、戦後スギやヒノキの人工林が急増してきたことや、その一方でマツ枯れによりアカマツがたいへん少なくなってきたことがあるが、森林が薪炭などに使われなくなったために、その樹木が概してかなり大きくなっているという変化もある。

たとえば、明治中期頃の京都近郊の森林の状態については、『京都府地誌』（京都府立総合資料館蔵）などの文献や当時の地形図や写真などから、かなり詳しく知ることができる。これらの資料によると当時の京都周辺の林の大部分はマツ林で、その高さは3~4メートル程度かそれ以下のものが多く、単木的なものは別として、高さが5メートルを超える森林は、社寺の裏山などのごく一部にしか見られなかったことがわかる。

また、比叡山などには森林とは呼べないような丈の低い樹木（柴）の茂るところも多く見られ、またススキなどの草地も少なくなかった。また、一部には草木がなく山骨が露出したハゲ山の見られるところもあった。

今とは大きく異なるそうした植生景観の背景

には、古くからの都市である京都周辺の山では、草木の燃料や肥料などとしての利用はもちろん、落ち葉までも燃料などとして利用され、酷使ともいえる山の利用があったことがある。一方、今日の森林の豊かさの背景には、化石燃料や電気がかつての薪炭に代わったり、海外から木材が大量に安価に輸入されていることがあるが、いずれにせよ、今日の京都周辺の森林の豊かさは、少なくともここ数百年の歴史の中では特別なことである。

森林が豊かであることは、一般には良いとされるが、それは必ずしも良いことばかりではない。たとえば、今秋の台風の通過の際には、室生寺の国宝五重塔や重要文化財に指定されている鞍馬の由岐神社拝殿などが強風で倒れた大木により大きな被害を受けたように、大木は貴重な文化財や人家などの近くにある場合には、それに重大な被害を与えることもある。

そうした問題以外にも、今日のように放置されて大きく茂っている森林では、かつての手入れの行き届いたマツ林や雑木林に生息していた植物や動物などが消えていっているという問題もある。マツタケはその一つのよい例かもしれない。また、かつては比較的明るい林の中で咲いていたツツジやヤマブキなどの花も、放置されうっそうと茂った今日の森林ではなかなか花が見られなくなっている。あるいは、春のギフチョウなどのように、明るい環境を好みそこで生息していたさまざまな生き物たちも同様に減少してきている。日本の国鳥であり、かつては京都近郊の山でも多く見られたキジが今ではあまり見かけられなくなっているのも、その鳥が好む草原や草原的な環境の減少によるこ

ろが大きいように思われる。

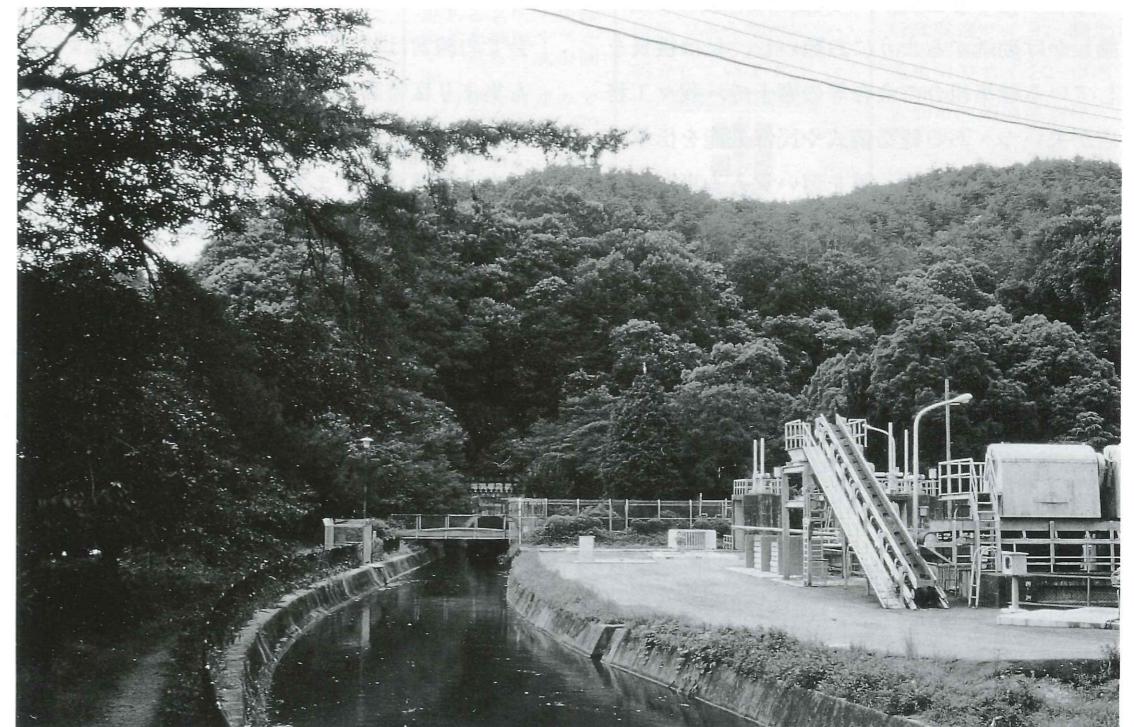
このような植生景観やそれにまつわる変化は、時代の流れとして片づけることもできるかもしれない。しかし、たとえば、伝統を大切にするイギリスでは、日本と同様な現象が早くから起こっていたことに対し、昔から人々が見慣れてきた森林の草花などを守るために、コピス（萌芽林）を維持するなどの伝統的な森林の作業をボランティアで行うような動きが1960年代からあり、今ではそれがずいぶん大きな広がりを見せている。日本の場合には、イギリスに比べて森林の面積の割合がずいぶん大きいといったことはあるが、部分的にでもそうした森林作業を行ったり、草地を維持することなどにより、春のカタクリやイチリンソウあるいは秋の七草

などが見られるような植生景観を守り、復元してゆく必要があるよう思う。また、そのような植生の山があれば、見晴らしもよくなり、山に登る人も増え、人々の健康増進にもつながるといった効果も出てくるかもしれない。

（京都精華大学助教授・当財団史跡管理専門委員）



琵琶湖疏水第三隧道東口付近（明治22年頃）



琵琶湖疏水第三隧道東口付近（現在）



## 番匠儀式の伝承 保存会30年を迎えて

橋本 貞造

前会長の故並河氏急逝の後、私が会長を引き継いだ当初は、会員の老齢化、退会等で太秦廣隆寺での「鉾始め」の御木の扱い手にも事欠くことが起り、会員の増加が私達に求められた緊急の課題がありました。そこで、私なりに立てた会運営の方向づけは、

### 1. 番匠儀式に関するお道具、衣装等の管理を図ること

### 2. 会員の増加に努めること

そこで先ず各会員が、それぞれの友人知人に話しかけ勧誘するようお願いし、私は役員をしている建築組合の会合等の席上で、我々工務店が失いつつある建築儀式や民俗芸能を伝承する為の「きやり音頭」等を習い覚える事が、如何に大切かを説き入会を勧める活動を行いました。お陰で若い人達の加入も徐々に増え、現在では34名となり、正月の「鉾始め儀式」も心置きなく挙行出来るようになりました。



本年は、昭和43年に保存会を結成して以来、30年の節目の年を迎えました。2月14日には、30周年記念式典と祝賀会を盛大に催させて頂き、その喜びと共に大きな責任を痛感しています。30周年の節目を記念して、記念誌として「伝統保存のあゆみ(二)」を製作しようという声が期せずして上がり、単なる記録の記念誌だけでなく、その中に会員の研修用に使える資料を兼ねた項を設ける事にしました。「鉾始め儀式」などは殆ど年1回程度で、翌年練習する時期になって所作、手順等について忘れる事がが多いので、細かく記録する事にしました。

「きやり音頭」の練習について一番苦労する事は、歌詞を覚える事は勿論ですが、如何に全員が拍子木を合わせ事が大事で、一人でも途中で「チーン」と入れば冷や汗ものです。定例会での練習は勿論、依頼出演の話があれば何回も集まり猛特訓です。ゆるい楕円形で横一列に全員が並び、音頭取りを横目でにらみながら拍子木の練習を行います。今では殆ど間違える事もなく見事に合うようになりました。

この様にして、伝統芸能は庶民の中で脈々と生き続け、時代と共に変遷しつつ受け継がれて行くものです。番匠保存会もその長い創造の歴史に新しい1頁を加える事が出来ればと考えています。

(番匠保存会 会長)



毎年1月2日太秦廣隆寺において行われる番匠儀式「鉾始め」行事。(当保護財団後援)

## インターネットで京都の文化財を世界に発信 —京都その文化遺産の保存と未来のために—

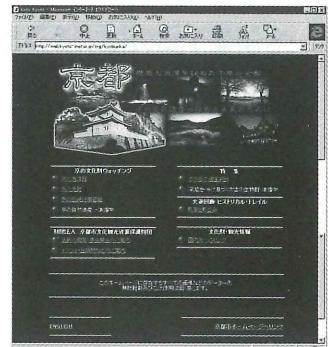
平成8年11月から開設しています当保護財団インターネットホームページの全体構成を紹介いたします。

文化財や観光資源の保護、学校教育や観光振興などへの情報発信と活用、文化財を中心とした京都をはじめとする国内外のネットワーク化などを目的にしています。

又、近々事業の実施にあわせて、新しく「京の自然遺産」「重要無形民俗文化財 久多花笠踊」の開設など、逐次情報を更新し発信してまいります。

皆様も、是非アクセスしてご利用下さい。

ホームページアドレス [http://web.kyoto-inet.or.jp/  
org/kyobunka](http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kyobunka)  
Eメール [kyobunka@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:kyobunka@mbox.kyoto-inet.or.jp)



ディレクトリページ

京の文化財ウォッチング	文遊回廊-ヒストリカル・トレイル	特集	文化財・観光情報
<p>数多い京都の文化財を体系的に紹介する「京の文化財ウォッチング」。</p> <p>「京の伝統行事芸能」では、四季を通じて行われています伝統行事芸能を解説や写真により一覧で紹介しています。</p> <p>又、「京の西洋館」「京の史跡」では位置図のポイントを指定すると時代別に各場所の解説や写真を見ることが出来ます。</p>	<p>平安建都1200年を機に取り組んでいます、京都の歴史ある名所・史跡などを地域やテーマで巡る「文遊回廊」。</p> <p>町家と町並みでは、中京区かいわい・下京区かいわい・東山区かいわいに分類し各ブロック内を動くキャラクターが解説や写真を用いて案内します。</p>	<p>京の祭の遺宝「剣鉾」</p> <p>祭礼の御輿渡御の先導を努め悪霊を鎮める祭具である剣鉾について資料や写真で詳しく紹介しています。</p>	<p>国内外へのリンク</p> <p>文化財関連のリンク集ページとして現在、行政関連サイト、観光情報関連サイト、世界遺産関連サイト、市内の神社・寺院サイト、京都市内関連博物館・美術館サイトの各ホームページ（計25件）を即座に見ることができます。</p>
<p>京の西洋館</p>	<p>京の史跡</p>	<p>財団法人京都市文化観光資源保護財団</p> <p>活動の概要・基金募金のご案内</p> <p>財団の設立趣旨や事業概要の紹介・基金募金の協力を広く呼びかけています。</p>	
<p>京の史跡</p>	<p>イベント・出版物のご案内</p>	<p>イベント・出版物のご案内</p> <p>当財団が主催する催しや、出版物の案内情報を逐次更新し紹介しています。</p>	

## 名勝雙ヶ岡の樹木管理と樹名板の設置

保護財団では、平成8年度より京都市が管理する名勝雙ヶ岡をはじめとする20か所の史跡、名勝などの保護管理活動を行っています。

今回は、名勝雙ヶ岡で行っています樹木の管理についてご紹介します。

雙ヶ岡は、一の丘、二の丘、三の丘からなり、古墳時代後期築造のいくつもの古墳が残り、鎌倉時代に吉田兼好が「徒然草」を執筆したと伝えられるところであります。

昭和16年に全域が、国の名勝に指定され現在、名勝公園として多くの人達に親しまれています。丘内には、アカマツを主体にヒノキ、スギ、ソヨゴ、コナラ、アラカシ、エゴノキ、モチツツジなど数多くの種類の樹木が生育しています。

名勝公園として良好な緑地管理をするため、マツクイムシなどの被害木の調査と防除対策、枝払いや枯損木の伐倒、肥培などヒノキの枝打ち、モチツツジ園の整備、アカマツの保護、花木の植栽を毎年計画的に行っていきます。

又、雙ヶ岡の自然に親しんでいただきため、樹木には樹名板を設置しており、今までおよそ66種類、200枚を数えています。



▲ 樹名板を設置する当財団職員

◀ モミジの植栽

雙ヶ岡の主な樹木と開花期			
落葉樹	常緑樹		
樹木名	開花期	樹木名	開花期
ウメ	2~3月	アセビ	3~4月
アオモジ	3~4月★	ヒサカキ	3~4月
ドウダンツツジ	4月★	ツバキ	3~4月
ヤマサクラ	4月	クロバイ	4~5月
ソメイヨシノ	4月	アラカシ	4~5月
ウワミズザクラ	4月	ヒラド	5月
クヌギ	4月★	モチツツジ	5月
コナラ	4月★	カナメモチ	5~6月
コバノガマズミ	4~5月★	クスノキ	5月
タカオカエデ	4~5月★	ツブライ	5月
エゴノキ	5~6月	サツキ	5~6月
ナツハゼ	5~6月★	ナナミノキ	6月
ネジキ	5~6月★	ゾヨゴ	6月
タカノツメ	5~6月★	カクレミノ	6~7月
ハゼノキ	5~6月★	イヌツゲ	6~7月
ヤマウルシ	5~6月★	サカキ	6月
アカメガシワ	6月★	シャシャンボ	7月
クリ	6月	リンボク	9月
リョウブ	7月	アカマツ	4月
コシアブラ	8月★	スギ	3~4月
		ヒノキ	4月

★…紅葉する樹木（紅葉期は晩秋から初冬）

雙ヶ岡は、最近少なくなったといわれる里山の姿をとどめるところであり、皆様も四季折々の自然に親しめる雙ヶ岡にお越しください。



▲ 名勝雙ヶ岡一の丘に設置されている樹名板（表紙カラー写真掲載）



▲ 樹名板を設置する当財団職員

## 1999年版 京の文化財カレンダー「京都・深泥池の四季—天然記念物 深泥池生物群集—」

京都の文化財をテーマに毎年作成しています当財団のオリジナルカレンダーを、京都の貴重な自然遺産である「深泥池」にスポットをあて発行いたします。『深泥池生物群集』として、国の天然記念物に指定され、生息する植物や動物は、文化財として保護の対象となっており、カレンダーでは、四季折々の美しい風景とともに紹介しています。

規 格 B3サイズ・8枚もの(表紙・解説含む)

申込方法 文化財カレンダー希望、住所、氏名、

(法人の場合は、法人名と代表者名)

電話番号、会員番号(当会報送付時の宛名

に記載しております番号になります)を記入

していただき、郵送料切手390円分を

注・申し込み資格は、当財団会員に限ります。

- ・申し込み部数は、法人・個人ともに1部とさせていただきます。
- ・申し込み多数の場合は、抽選となりますのでご了承下さい。
- ・カレンダーの発送は、12月中旬頃の予定です。

なお、会員以外の方や、会員で2部以上をご希望の方がおられましたら、実費領布もおこないますので事務局までお問い合わせ下さい。

同封のうえ封書でお申し込み下さい。

申込期限 12月21日まで（必着）

申込先 京都市左京区岡崎最勝寺町

京都会館内（〒606-8342）

財京都市文化観光資源保護財団 宛



## 「京都の自然遺産」展と第9回京の歳時記展「久多花笠踊」展を開催

京都には、豊富な文化遺産とともに山紫水明の豊かな自然環境のなかで守り継がれてきた自然遺産が数多くあります。動植物などの天然記念物や自然の景観をもつ名勝など京都の自然の文化財を紹介する「京都の自然遺産」展とこのたび国的重要無形民俗文化財に指定されました京都市の最北端に位置する久多に伝承されています「久多花笠踊」を、紹介する第9回京の歳時記展をそれぞれ開催します。

自然遺産

花脊の天然伏状台杉▼

「哲学之道」  
ゲンジボタル  
▼



▲重要無形民俗文化財  
「久多花笠踊」

### □「京都の自然遺産」展

期 間 平成11年1月30日(土)~2月16日(火)

内 容 樹木、生物などの天然記念物や自然の名勝、環境保全地区などを工夫を凝らした展示により紹介します。

### □第9回京の歳時記展

#### 重要無形民俗文化財指定記念「久多花笠踊」展

期 間 平成11年2月19日(金)~3月7日(日)

内 容 久多花笠踊の花笠などの実物や写真、パネル、ビデオなどの展示により花笠踊と祭りを受け継ぐ人々や久多に残る自然、住まい、行事など紹介します。

会 場 京都市四条ギャラリー(京都市下京区(二展示とも) 四条高倉東入 四条東洋ビル地階)

開所時間 午前10時~午後7時

休 所 日 毎週水曜日

入 場 料 無料  
※会員の皆様には、追って開催のご案内をご送付いたしますので、ご鑑賞下さい。

## 第29回京の郷土芸能まつり“京都市自治100周年記念”特別企画『都の賑わい一祭り・まつり』

今回は、京都に伝わる郷土芸能に、日本人の心の故郷として親しまれている“小京都”的芸能を加え二日間にわたる賑やかな舞台で開催します。

また、この二日間、会場周辺の岡崎公園一帯と平安神宮では、京の地場産品（伝統野菜や京の名産品など）が実演販売をはじめて一堂に集まる楽しい“京の朝市”が開催され、“小京都”的市や町からも多数の名産品が出展されます。是非お越し下さい。

□開催日時 2月27日(土)・28日(日)

各日とも 開場：午後2時

開演：午後2時30分

終演：午後4時30分

□会 場 京都会館第1ホール（左京区岡崎最勝寺町）

□出演芸能

### 2月27日(土)

京都の芸能 「嵯峨大念佛狂言」「南觀音山祇園囃子」

「大原八朔踊」平安神宮節分「大儺の儀」

小京都の芸能 山口市「鷺流狂言」（山口県指定無形文化財）

秋田県角館町「飾山ばやし」（重要無形民俗文化財）

### 2月28日(日)

京都の芸能 「梅津六斎念佛」「玄武やすらい花」

「嵯峨祭劍鉾差し」「二十五菩薩來迎会」

小京都の芸能 27日と同じ（但し上演の演目が異なります。）

□主 催 京都市・財京都市文化観光資源保護財団・財京都市観光協会

□後 援 財平安建都千二百年記念協会・財京都市文化ホール運営センター・財祇神会

□協 賛 全国京都会議

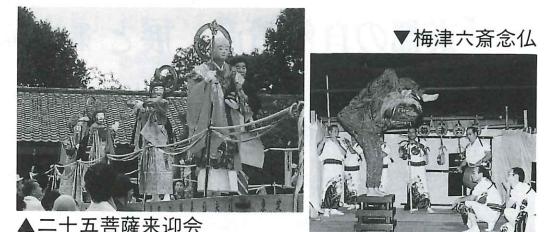
□料 金 2,000円（全座席指定）

2日間観賞券 3,000円（観光協会のみ取扱  
い・TEL 075-752-0227）

発売／1月中旬より京都市内百貨店プレイガイド  
・京都会館プレイガイド・京都市観光案内所にて

予約／観光協会まで

財団会員の方には、料金の2,000円を1,500円に割引きします。（たしお1人様2枚まで、なお2日間観賞券の割引はありません。）ご希望の方は、財団事務局までお電話でお申込みください。



▼梅津六斎念佛

▲二十五菩薩來迎会

## 京の文化財探訪 妙心寺塔頭寺院「隣華院」と「天球院」を訪ねて

文化財とのふれあいの機会を持つことによって文化財愛護をよびかける「京の文化財探訪」、今回は右京区花園にある文化財の宝庫、妙心寺の塔頭寺院二カ寺の文化財特別公開を行います。普段は公開されていない文化財をこの機会に是非ご観賞ください。

□日 時 3月26日(金)・27日(土)・28日(日)

各日とも午前10時～午後4時  
(受付けは午後3時30分まで)

□参 觀 料 二か寺で、1,000円  
(期間中 各寺院入り口にて受付)

□主な見学対象 天球院／本堂・本堂障壁画（狩野山樂・  
狩野山雪筆）重要文化財  
隣華院／客殿・客殿障壁画「山水図」  
(長谷川等伯筆) 重要文化財

□後 援 京都市・財平安建都千二百年記念協会

□協 力 京都の文化財を守る会（説明案内）



「天球院」本堂障壁画



「隣華院」客殿内部

## 文化財専門委員会開催

今年度助成申請のありました文化財所有者、管理者が行われる文化観光資源の保護事業や伝統行事芸能の保存執行に対する助成対象を審議します平成10年度文化財専門委員会を去る9月28日に開催しました。賀茂別雷（上賀茂）神社の日供門及び脇垣屋根葺替工事、金戒光明寺の木造不空羈索観音菩薩坐像修理など保護事業8件と例年どおり伝統行事14件、伝統芸能29件の計43件を助成対象に選定しました。

なお、助成額は保護財団理事会において交付決定されます。

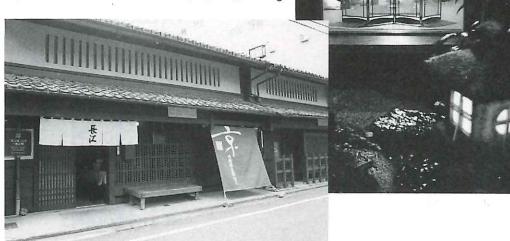
## 文遊回廊「京の町家を訪ねて」

京町家の趣きがよく残る今も生活の場とされている町家を歩き訪ね見学していただく文遊回廊「京の町家を訪ねて」を、8月の1か月間にわたり実施し、期間中およそ延べ23,000人の参加者を数えました。

8月1日より17日間にわたり一般公開を行ないました「長江家住宅」では、当家の内部とともに商売道具や生活用具なども展示し、見学していただきました。

8月21日からの7日間行ないました5軒の町家の公開では、京町家ならではのそれぞれに趣向が凝らされた内部の意匠や夏の室礼を見学していただき、大勢の見学者も堪能されました。

又、今回は始めて夜の特別公開も実施し、公開を行なった「吉田家住宅」では、日中とはまた違った町家の夜の情緒を味わっていただきました。



## 文化財特別参観「京の文化財探訪」

### 黒谷「金戒光明寺」と南禅寺塔頭「光雲寺」

当事業は、京都の文化財により親しんでいただくことを目的に実施しているもので、去る10月1日～3日の3日間、保護財団会員と京都市民およそ1,360人の参加者のもと実施しました。

今回は、未公開の金戒光明寺の三門内部や光雲寺の本堂、庭園などの文化財の特別公開を行ない、「京都の文化財を守る会」のボランティアの方々の案内説明のもとに、両寺院の文化財を鑑賞していただきました。



募金にご協力いただき  
ありがとうございました

寄付者芳名録（敬称略）

法人及び団体の部

〔特別会員〕

※住友信託銀行京都支店 <18,109,000円>  
 ※株式会社一保堂茶舗 <11,300,000円>  
 ※京都シティハイアマランツ実行委員会 <3,064,894円>  
 ※金地院 <1,780,000円>  
 ※ケイコ工業株式会社 <820,000円>

## 〔普通会員〕

※山田織維株式会社	<430,000円>
※厚木市立玉川中学校	<325,825円>
※土屋便利堂	<270,000円>
※株式会社岩佐商店	<230,000円>
※株式会社菊の井	<195,000円>

〔贊助員〕

※ 中喜株式会社	<76,000円>
※ 有限会社東海設備工業	<26,500円>
愛川町立中原中学校三年生一同	<18,887円>
※ 香宮神社	<10,890円>
※ 財団法人泉屋博古館	<10,689円>
茶道文化会	<2,000円>

個人の部

〔特別会員〕

<2,700,000円>  
<1,100,000円>  
<700,000円>  
<450,000円>  
<435,005円>

16,000円>  
16,000円>  
16,000円>  
16,000円>  
16,000円>  
15,000円>  
15,000円>  
14,000円>  
14,000円>  
13,426円>  
13,000円>  
13,000円>  
12,468円>  
12,468円>  
12,000円>  
12,000円>  
12,000円>  
12,000円>  
12,000円>  
11,850円>  
11,450円>  
11,125円>  
11,017円>  
11,000円>  
11,000円>  
10,984円>  
10,889円>  
10,879円>  
10,787円>  
10,785円>  
10,783円>  
10,741円>  
10,738円>  
10,677円>  
10,677円>  
10,670円>  
10,667円>  
10,625円>  
10,607円>  
10,593円>  
10,561円>  
10,551円>  
10,547円>  
10,457円>  
10,393円>  
10,256円>  
10,244円>  
10,182円>  
10,000円>  
10,000円>  
10,000円>  
10,000円>  
10,000円>  
10,000円>  
10,000円>  
<9,938円>  
<9,870円>  
<9,639円>  
<9,586円>  
<9,586円>  
<9,245円>  
<9,000円>  
<9,000円>  
<9,000円>  
<8,613円>  
<8,613円>  
<8,559円>  
<8,541円>  
<8,000円>  
<8,000円>  
<8,000円>  
<8,000円>  
<8,000円>  
<8,000円>  
<8,000円>  
<7,939円>

尾井崎川原本藤坂川元村野 井谷 木野中合野本井永波井山村井谷和見谷訪田藤本丸合田井西野黒本井沢水藤井井本  
西藤吉岩吉松宮後林吉宮田小林松木港八浅田川上橋福福南金内三阪艶中石塙小諏前伊山石河吉岩小神石杉今南清伊  
筒鳥岸長山荒西寺山鞍廣井山山梶近片安時本新大山森松矢田山橋小

友正成健美礼博照 光二三マ武礼喜義代アよい登克勲茂安忠涼直歌 洋一節 喜か昌欣善清洋至信廣達健昌 千俊清才徳朝正梅源子清治英幸 通耕暢郁朋敏修とき精弘留 繁健幸敬

美通行郎早子保子昇子三子ミ子子次喜子江子子己一子代司子一子寿子夫代壽子恵子彌雄美子榮哉子也吉子明勇美一信郎治子亘国吾子子男雄雄實子一造子子一之の子幸夫亮樹次三子  
久志やしよ代 三ス 田 美す 登 治朝正代 源子清治英幸 通耕暢郁朋敏修とき精弘留 繁健幸敬

〔※印は、追加寄付の篤志者、なお、編集の都合により今回ご紹介出来ませんでした寄付者の方につきましては、今後順次紹介させていただきますのでご了承下さい。〕

# 京の伝統行事芸能 (12月～3月)

## 12月

31～1日 おけらまいり(午後7時30分頃～) 八坂神社

## 1月

2日 鋸初め(午前10時～) 広隆寺

3日 久多の山の神・お弓(午前11時30分頃) 志古淵神社

4日 蹤鞠始め(午後2時～) 下鴨神社

10日 梅林寺ジジバイ講(午前11時～) 梅林寺

14日 日野裸踊り(午後7時～) 法界寺

15日 大原上野町おこない・お弓(正午前後頃)  
大原上野町・淨樂堂

## 2月

9日 小山の山の神(午後2時前後頃) 山科区小山

24日 上賀茂さんやれ(午前11時～午後12時30分)  
北区上賀茂・大田神社・上賀茂神社

## 3月

15日 嵐峨お松明(午後8時頃～) 清涼寺

注) ここに取り上げています年中行事や民俗芸能は、京都市内で国指定又は京都市指定・登録及び当財団が保護対象としています無形民俗文化財を紹介しています。

又、都合により行事日程、時間等が変更される場合があります。

※当保護財団では、インターネットホームページ「京の伝統行事芸能」を開設しておりますので、アクセスしてご利用下さい。

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kyobunka/gyozi/bunnkazai.html>

## 編 集 後 記

□本号では、当保護財団の史跡管理専門委員の小椋純一京都精華大学助教授から京都周辺の山々の植生景観についてご寄稿をいただきました。山々の植生から、その時代の文化や生活様式の変化などの歴史を読みとることが出来ます。当保護財団では、ご紹介しましたとおり名勝雙ヶ岡の維持管理に日常努めていますが、皆様も京都の美しい自然と景観を保全するため、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 京の文化遺産を守る募金にご協力を

皆様から寄せられています募金は、保護基金として文化財の保護や普及啓発事業に充てられています。

会員の皆様からの追加募金や、新しい会員の方の呼び掛けにも一層のご支援とご協力をいただけますようお願い申し上げます。

## 会報 No.76

1998.11.20

会報題字／理事長 上山善紀

会報表紙／名勝雙ヶ岡の樹木と樹名板

編集・発行／財団法人京都市文化観光資源保護財団

京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内

〒606-8342 TEL 075 (752) 0235

FAX 075 (752) 0236